

指針に基づく情報公開

放射線影響研究所では、個人情報保護法に基づく研究倫理指針を遵守し、この研究については、対象となる方のお一人ずつに直接説明を行い同意を得る代わりに、情報を公開することにより試料・情報を利用させていただいています。

研究成果は学会や学術誌等で発表されますが、お名前、ご住所などの情報が公表されることはありません。

ご自身または代諾者等が、試料・情報をこの研究に使用してほしくないと思われる場合、研究計画の概要をご覧になりたい場合、その他研究に関することは「問い合わせ先」へご照会ください。ご照会された場合でも、なんら不利益を受けることはありません。

研究計画書番号	RP-S1-20	研究期間	2026 年 4 月まで
研究課題名	原爆被爆者の放射線に関連した肺がんリスクにおける女性特有の因子の影響修飾		
研究責任者（所属）	タサイ・ケビン（ワシントン大学）		
放影研での研究責任者	ブレナー・アリーナ		
試料・情報の利用目的及び利用方法	利用目的： 原爆からの放射線の被ばくによって肺がんの頻度が増える傾向があります。この関連は、男性よりも女性で大きいことがわかりました。初経や閉経、妊娠や出産などの女性特有の因子が、肺がんと放射線被ばくの解析結果に影響している可能性があります。本研究は、原爆被爆者の寿命調査のデータを用いて、女性特有の因子が肺がんの放射線被ばくの解析結果に影響するかどうか調べます。 利用方法： 解析では、寿命調査のがん罹患のデータ（追跡期間は 1958 年から 2009 年）は市、年齢、喫煙などの生活習慣を調整して用います。統計モデルを用いて、肺がんと放射線被ばくの関連について、生殖因子がどのように影響するかを検討します。 本研究に使用するデータは、放影研で用いる個人識別番号をさらに他の番号に置き換えることにより、個人情報を仮名加工しています。置き換えた番号の対応表は、放影研疫学部で施錠できる保管庫に安全に保管し、外部研究者は使用できません。		
他の機関への提供の有無	☒ 有 提供先機関名：ワシントン大学、ヴァンダービルト大学		
	☐ 無		
利用し、又は提供する試料・情報の項目 (提供する試料・情報の取得の方法)	放影研が保有する情報：市、性、生年月、爆心地からの距離（近距離・遠距離を含む） 法務省から許可を得て戸籍から得た情報：研究開始と最終追跡の年月（死亡している場合は死亡年月）、生死の別 ABCC が実施した調査に基づき放影研線量推定システムで推定された肺の放射線量（個人が識別できないよう数値は丸める）		

	公共の資料を用いて放影研で推定された人口密度 質問紙から得た生活習慣の情報：初経・閉経年齢、閉経の種類（人工・自然）、月経周期、妊娠・出産年齢、中絶回数、喫煙、飲酒、身長・体重、質問紙に回答した年と年齢、最初・最後に回答した年と年齢 既存のがん情報：広島・長崎の地域がん登録（広島県市・長崎県の事業）および腫瘍組織登録（広島県・長崎県医師会の事業）の情報（部位、肺がんの組織型、性状、国際疾病分類腫瘍学の版、診断年月、診断時年齢、がんの診断順序、診断根拠、進行度、受診の理由、死亡診断所のみで診断されたか否か、診断時住所（市内・市外・県外））、放影研で実施した病理学研究の情報（肺がんの診断年月、病理学者の最終診断、World Health Organization 分類 2004 年版に基づく亜分類、診断根拠）、ABCC の剖検でがんが診断されたか否か 放影研が保有する情報の収集方法の詳細は、要覧をご覧ください。 (https://www.rerf.or.jp/uploads/2017/07/briefdescript_j.pdf) 2021 年 5 月 18 日から利用、提供を開始しています。
利用する者の範囲	ワシントン大学 タサイ・ケビン フィップス・アマンダ モーレンツ・エリック カヌーロ・マルコ ヴァンダービルト大学 フレンチ・ベンジャミン 放射線影響研究所 杉山裕美 ブレナー・アリーナ 歌田真依
試料・情報の管理に責任を有する者の氏名又は名称	タサイ・ケビン（ワシントン大学）
統括個人情報保護管理者	放射線影響研究所 業務執行理事 児玉和紀
問い合わせ先	【研究担当者】 氏名：ブレナー・アリーナ 公益財団法人 放射線影響研究所 疫学部 住所：広島市南区比治山公園 5 番 2 号 TEL：082-261-3131